

かだる

ka da ru

2015

12月

冬号

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

輝くシニア

I T※を通じたシニアの社会参加 シニアネット・リアス大船渡（大船渡市）

シニアネット・リアス大船渡（及川純代表、会員 50 名）は、パソコンなど、情報通信技術を活用したシニアの生きがい、社会参加を図ることを目的に活動しています。会員は、入会当初は皆パソコン初心者で、定年退職者やパソコンに興味を持つ高齢者です。

結成当初は地元の公民館を拠点に活動していましたが、現在は、及川代表が経営していた学習塾のスペースを活用し活動しています。入会後はパソコンの基本操作の学習から始まり、ワード、エクセルなどに加え、デジタルカメラの画像取り込み・処理方法、絵はがきやカレンダー作成、家計簿の作り方などを学びます。活動日は毎週火、水曜日の午前・午後で木曜日は上級者向けの応用講座。応

用講座では、ブログやホームページ作成などを学びます。講師は会員の中でも技術レベルが高い人が対応。楽しみながら新たな知識を得、技術の向上が活動の喜びにつながっています。

パソコンスキルを身につけた会員は、その技術を社会奉仕に活かす活動も行っています。その活動のひとつは、市内の病院で出される食事に添えるメッセージカードの作成。イラスト付きのカードには食事への意見が書けるようになっています。その他、大船渡市内の観光資源を掘り起こし、新たな観光ルートを創設する事業に取り組んでいます。会員が地元の観光スポットおよび観光になりそうな箇所を実地に探訪し、体験したこと、感じたことを写真付きでパ



大船渡市内の観光資源を掘り起こして
まとめた 5 冊のパンフレットと CD

ンフレットにまとめ、観光業者や行政などに配布しています。また、ホームページ（魅力満載 <http://snr-ofunato165.jimdo.com>）で、復興の状況と併せて大船渡の魅力を発信しています。

「年を取ると足腰が弱まり、買い物や外出の機会が減る。さらに情報を得にくくなり、周囲や社会に取り残されやすい。高齢者こそ、I Tの知識が必要」と及川代表は話します。「パソコンを通じて自分ができることや楽しみを増やし、さらに学習した知識を奉仕活動につなげたい」としています。「今後は、高齢者のスマートフォン活用術講座なども行い、I Tを活用した高齢者の社会参加をさらに広げたい」と抱負を述べました。

※情報や通信に関する技術の総称



パソコン講座で学習する会員のみなさん

シニアネット・リアス大船渡

住所 大船渡市大船渡町字台 16-5

電話 050-3654-4126 (IP 電話)

ホームページ

<http://snr-ofunato.jimdo.com/>

アクティブ・シニア学習セミナー開催 ～高齢者の社会参加を支援～

11月24日、高齢者の社会参加への支援を目的にセミナーを開催しました。当日は県内各地から30名のシニアが参加。参加者は、活動紹介や意見交流等を通じて、今後の活動の参考としました。

このセミナーは3部構成で実施。1部では、県内で行われている活動事例の発表。花巻で活動する高松第三行政区ふるさと地域協議会は、高齢化が進む地域で、高齢者の社会参加をすすめながら地域の活性化を図っており、地域独自の福祉計画を策定し、地域の資源を有効活用して、「農業」「福祉」「交流」の3本柱で活動している様子を紹介。そのほか、奥州市の水沢南大鐘寿会は、高齢者の趣味や豊富な経験を生かして、慰問や地域交流を行っている活動のほか、矢巾町のグランマシニア教室は、高齢女性が中心となって行っている、地域の子どもたちやその親との交流活動を紹介しました。



事例紹介に熱心に耳を傾ける参加者

第2部は、大道芸による慰問活動を行っている、岩泉町の岩上敏一さん（72）の大道芸公演。岩上さんは、仏具店を営む傍ら県内の高齢者施設等を訪問して自身考案の大道芸を披露しています。当日も軽妙な語りと多彩な芸を披露し、会場は笑い拍手につつまれました。（写真は3ページに掲載）



ワークショップの様子

第3部では、参加者がグループに分かれワークショップを実施。他の団体はどのように工夫をしているのか、活動の課題や苦勞、そして今後の抱負について意見を交わしました。課題について多くあげられたのが、「リーダー育成」「会員の高齢化」「資金の獲得」「行事をしても同じ人しか集まらない」「人材不足」など。同じような場面で苦勞をしている参加者も多く、ワークショップを通じて活動を充実させるヒントなどを学びました。

滝沢市と九戸村の高齢者が意見交流

11月19日、高齢者の社会参加について意見交換を行い、今後の活動に役立てようと、滝沢市と九戸村の高齢者が交流会を行いました（主催：特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会）。

この事業は、滝沢市と九戸村で行われている高齢者の社会参加について学ぶ講座の一環として行われたもので、当日は、講座やサロンに参加する高齢者が滝沢市の老人福祉センターに集まりました。

九戸村では、「いきいきサロン」などが村内で行われており、当日はその様子やサロンで行っているリズム体操などを披露。滝沢市の参加者からは助成金を活用した事業などが紹介され、双方が取り組む活動をもとに、意見交換が行われました。

参加者は、「それぞれの地域で取り組まなければならない課題はあるが、地域でできることをやり、自分たちになりに考えていきたい」「介護予防のために何でもいいので体を動かすことが大事」など、普段の思いや苦勞、これからの地域や高齢者の生きがいについて意見を交わしました。



参加者全員で健康体操を行っている様子

古典の日によせての会（二戸市）

「古典文化とのふれあい」

古典の日によせての会（秋元弘子会長、会員 18 人）は、「古典に親しみをもつ高齢者が集まり、知的好奇心を高め、心豊かで文化的な生活を送ること」を目指し、古典の普及などの活動を行っています。元々、同会の主要メンバーは、古典を読む会（沙羅の会）が中心となり、琴や詩吟、尺八を趣味で行っているサークル等が加わり、地域に古典の文化に親しむ機会をつくろうと同会の結成に至りました。

平成 25 年 9 月に結成してからは、平成 24 年、文化庁が定めた「古典の日」の 11 月にあわせてイベントを開催しています。今年、第 3 回目となる「古典の日によせて」は、11 月 29 日に二戸市内で開催。当日は、市内外から約 100 名の来場者がありました。イベントでは、詩吟や尺八、かるたの由来についての解説や、演奏のほか、瀬戸内寂聴氏によって現代語訳された源氏物語を、箏と横笛の演奏に合わせ朗読を行いました。同会場の展示ホールでは、絹絵や盆栽、高校生の書道のほか、三十六歌仙の歌の書な



古典の日によせての会のみなさん

どを展示し、参加者は古き日本の文化に思いをはせていました。

会長は、「毎年行っているこのイベントには、多くの方に来場いただいております。関心の高さがうかがえます。今後も、このような機会を通じ、古典の良さや日本人としての誇りをさらに感じていただきたい」と話しています。

（この事業の一部に、いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

平成 27 年度「エイジレス・ライフ実践者および社会参加活動事例」表彰

内閣府では年齢にとらわれず自由に生き生きとした生活を実践する高齢者を、毎年広く紹介しています。平成 27 年度の「エイジレス・ライフ実践者」に岩泉町の岩上敏一さん（72 歳）、地域で社会参加活動を行っているグループの「社会参加活動事例」に、盛岡市の北の街ナツメロ合奏団（北田治子代表）が、本県から選ばれました。



大道芸を披露する岩上敏一さん

岩上さんは県内の高齢者施設や障害者施設などを回り、大道芸による慰問活動を平成 20 年から行っています。東京スカイツリーのオブジェや灯籠、人形など、いろいろなものを頭の上で回す芸や歌・楽器演奏等を行います。

道具はすべて、自身の手作りで、自営の葬儀屋・仏具店で不要となったものや日用品、電化製品などを再利用。訪問回数は平成 26 年 10 月に 1,000 回を達成し、現在は 2,000 回を目指し活動しています。

北の街ナツメロ合奏団は、長年趣味で楽器を親しんできた人たちが中心となった合奏によるボランティア団体です。マンドリンやギターなどの楽器に歌唱を加えた合奏団を編成し、岩手県内の公民館、高齢者施設、町内会行事などに出向きボランティア公演を行い、公演回数は 350 回を数えます。東日本大震災以降は岩手県沿岸被災地からの依頼もあり、仮設住宅で慰問公演を行うなど、精力的に活動の幅を広げています。



北の街ナツメロ合奏団の公演の様子

北天塾サロン（斎藤彰吾会長、会員 37 名）は、北上地域の歴史に関心を持つ北上市在住の高齢者が集まり、地域の研究・調査を主として活動しています。会の趣旨は「北の天地に生きた人々の過去と現在の姿を見つめて東北学を起こすことにより、次の時代への展望を確かなものにしようとする」として活動しています。

結成したのは昭和 62 年。10 年ほど活動が続け、一旦活動を休止しましたが、一部の会員や地域から、地域の歴史を知る必要性や高齢者の生きがい活動のためにも必要との声があがり、平成 26 年 2 月に活動を再開しています。

主な活動は、毎月 1 回、市の生涯学習センターを会場に開催するサロンです。サロンでは、会員の中から毎回 1 人が調査や研究の成果を発表します。歴史や文化、地勢などの中から、発表者が関心を持つものをテーマとして選び、会員は発表された内容について意見をかわし、テーマをより深く掘り下げて行きます。

このほか、今年度からは、「稲瀬火山岩地形による歴史を通史として見る」をテーマに、会員が展勝地



北天塾サロンの会員みなさん

東の稲瀬火山岩の地域について地勢や歴史を調査しました。その結果、多くの興味深い史実が明らかになっています。

この地域には、古代に北東北最大級の仏教の一大聖地が存在していたこと、明治初期までは修験者の修行場であったことなど、多くの遺構が残されています。この調査結果については、報告書をまとめ、市内 4 地区での報告会を行い、広く市民に紹介する予定です。また、この調査結果を踏まえ、平成 31 年に桜の植樹を記念して行われる「展勝地 100 年」に向け、新たな観光スポットとして、「歴史の道」の案内板の設置を目指しています。

斎藤会長は、「現在抱えている課題は会員の高齢化。若い人にも加入を呼び掛けたい。今後行いたいこととしては、今回の調査をもとにして、北上地域の歴史についてさらに探求していきたい。そして、広く市民に知らせていきたい」と話しています。

（この事業の一部に、いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）



調査先での様子

平成 28 年度「ご近所支え合い活動助成金」第 1 次募集のお知らせ

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターでは、平成 28 年度ご近所支え合い活動助成金の第 1 次の申請を、平成 27 年 12 月 15 日（火）から受け付けます。第 1 次の締切は、平成 28 年 2 月 5 日（金）必着。申請についてご不明な点は、当サポートセンターまでお問い合わせください。

※ご近所支え合い活動助成金とは、県民が共に支え合う地域貢献活動等を支援するための助成制度です。概ね市町村単位もしくは市町村の一部で行う、①高齢者が主体となって行う活動、または、②高齢者等をサービスの対象とした活動を対象としています。

企画・発行 / 岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成 27 年 12 月 20 日発行

〒 020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 6 階 tel 019-606-1774 fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aiina.jp URL <http://www.aiina.jp/advancedage/index.html>

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。

〒 020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>